



ワールド・シアター・デイ 2018

進化の歴史を見る限り、あらゆる生物は永遠の存続を指向するという。時空を超えた種の繁栄と永遠不滅を目指す。種の存続のためには、自らの身を傷つけ、破壊することもある。しかし、私たちが考えるべきは、洞窟に住み、狩猟生活をしていた石器時代から今日の宇宙時代までの人類の存続と解放だ。人類はかつてより優しくなったのか？ 感受性は豊かになったか？ 喜びは大きくなったか？ 母なる自然への愛は深まったのか？

原初以来、舞踊や音楽や演劇などのライブパフォーマンスは言語とともに発達してきた。言語は母音と子音から成り立っている。母音は感覚や情緒を表現し、子音は形や思考、知識を伝達する。その結果、数学や幾何学、武器、コンピューターが生まれた。こうした言語の進化を元に戻すことはもはやできない。この地球を守るためには、生の舞台芸術の喜びとテクノロジーなどの知識を、俗事や怒り、欲望や悪から解放し、もう一度昇華させなければならない。

マスメディアと科学技術のおかげで、私たちは強大な力を手に入れた。そんな今、舞台芸術は形式よりもその内容が重大な転機を迎えている。この地球、すなわち我々の「劇場」を守るためには、今の時代を生きる人々の心をつかまなければならない。そのためには、初等教育の一環として、子どもたちに演劇などのライブパフォーマンスに親しんでもらうことだ。それによって、この世代の命と自然を大切にす感受性を養うことができる。そうなれば、言語の優位性が母なる地球や他の星に害を及ぼすおそれもずっと少なくなる。そして劇場は、生命の維持と存続にとってさらに重要なものになっていくだろう。だからこそ、この世界共存の宇宙時代に、互いを脅かすことなく、アーティストや観客に力を与えていかなければならない。

舞台芸術はすばらしい。草の根レベルから地方と都市部のあらゆるところで、世界中の子どもたちに身体と言語と心をひとつにする教育がもたらされることを私は切に願っている。

ラム・ゴパール・バジャージ

Ram Gopal Bajaj

演出家、舞台・映画俳優、教育者。1940年インド、ダルバンガ生まれ。

1960年ビハール大学卒業。1965年インド国立演劇学校（National School of Drama）入学、演技を専攻。卒業後は同校の教壇に立ち、演劇教育論の研鑽を積んだ。その後、同校校長、客員講師を務めたほか、パンジャブ大学、ハイデラバード大学、ニューデリーのモダンスクールの職を歴任。

演劇を学んだ後、1967年創設のプロフェッショナル劇団「ディシャンタル (Dishantar)」に創立メンバーとして参加し、本格的な俳優活動を開始する。インド国内と国外の作品に出演した初期の演技で高い評価を受けた。その後、俳優、研究者としての経験を生かして演出も手掛ける。

これまで36作に出演、45作を演出。演出家として1992年にインド・ナショナル・プレスの演劇賞を受賞。俳優として2017年にダダサheb・ファルケ (Dada Saheb Phalke) 演劇祭で最優秀俳優賞を受賞。また、外国語作品19作のヒンディー語翻訳・翻案を手掛け、独特のスタイルの詩の朗読も高い評価を受けている。

2003年、演劇活動における功績により、インド大統領からインドの国民栄誉賞にあたるパドマシュリ賞 (Padma Shri) を授与された。2015年と2016年、生涯功労賞を受賞、2017年にはヒンディー語の演劇・文学への多大な貢献によりカーリダース・サンマン賞 (Kalidas Samman) を受賞。現在も舞台と映画の両分野で俳優、演出家、著述家として活躍を続けている。

翻訳：黒澤さつき
Translation : Satsuki KUROSAWA